

A 学校教育目標

ふるさとに誇りをもち、今と未来の幸せをつくる学校 ～共生 凡事徹底 挑戦～

B 生徒会テーマ

93
「Smile」 ～笑う門には幸来たる～

C 目指す生徒像

- | | |
|------------------|----------------------------|
| 1 共感的協働力のある生徒 | ～ 相手を尊重し、仲間と力を合わせて考え、想像する |
| 2 主体的実践力のある生徒 | ～ 自ら課題を見付け、考え、判断し、よりよく行動する |
| 3 自己肯定感・自尊感情をもった | ～ 二つの仁感情を高め、成長思考で行動する |

J : 時 間 (見 通 す 力)
 A : あいさつ・言葉 (伝 える 力)
 K : 聴 く ・ 姿 勢 (受 け 止 め る 力)
 S : 整 理 整 頓 (整 え る 力)

D 今年度の重点

未来につながる豊かな人間性と社会性の育成

- 自己肯定感と自尊感情の育成
- 全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実
- いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織

未来につながるふるさとキャリア教育～「たしろDREAM計画」

- 郷土愛の醸成と地域貢献力を育てる体験活動
- 地域の教育資本(ヒト・モノ・コト)と関わる体験・交流活動
- 望ましい職業観や勤労観を育む体験活動
- 社会における役割や将来の生き方生き方を学ぶ活動

未来につながる確かな学力の育成

見方・考え方を働かせ、社会の中で生きて働く確かな学力を身につける生徒の育成
～生徒が自ら学び続けるために～ ※「見方・考え方」とは…課題を解決するための鍵となる「視点」や「考え方」

共通実践事項1【(1)(2)を単元(題材)や授業の中に組み合わせて、深い学びを目指す】

(1)生徒一人一人が最適に学べる支援の工夫 (2)他者の考えを大切に、協力しながら課題解決を目指す「樹林タイム」の設定

共通実践事項2【授業力向上のため、全教科共通して実践する】

・ICTの活用 ・明確なゴール ・板書計画・発問の精選 ・同じベクトルでの授業改善 ・ユニバーサルデザイン ・個の見とり

全教育活動を通して育成を目指す資質・能力

- | | |
|--------------------------------|-------------------------------|
| I JAKSを基盤とした人間的基礎力の育成 | III 全ての教育活動を通して行う道徳教育の充実 |
| II 主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情の育成 | IV いじめ・不登校の未然防止と自立支援のための組織的対応 |

ふるさとへの誇りや自立の気概を育み、未来につながる「ふるさとキャリア教育」の充実

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| I 郷土愛の醸成と地域貢献力を育む体験活動 | IV 社会における役割や将来の生き方を学ぶ活動 |
| II 地域のひと、もの、ことと関わる体験・交流活動 | V 田代地域学校協働支援チームでの連携・協働 |
| III 望ましい職業観や勤労観を育む体験活動 | |



【大北秋季総体優勝 野球部】



【学校祭 全校合唱】



【3年生 きりたんぽまつりでの最後のソーラン】



【2年生理科 大館市総合教育研究会】



【なべっこ】



【山田での全校稲刈りボランティア】



【第2回 キャリア講話】



【「未来を語る会」】

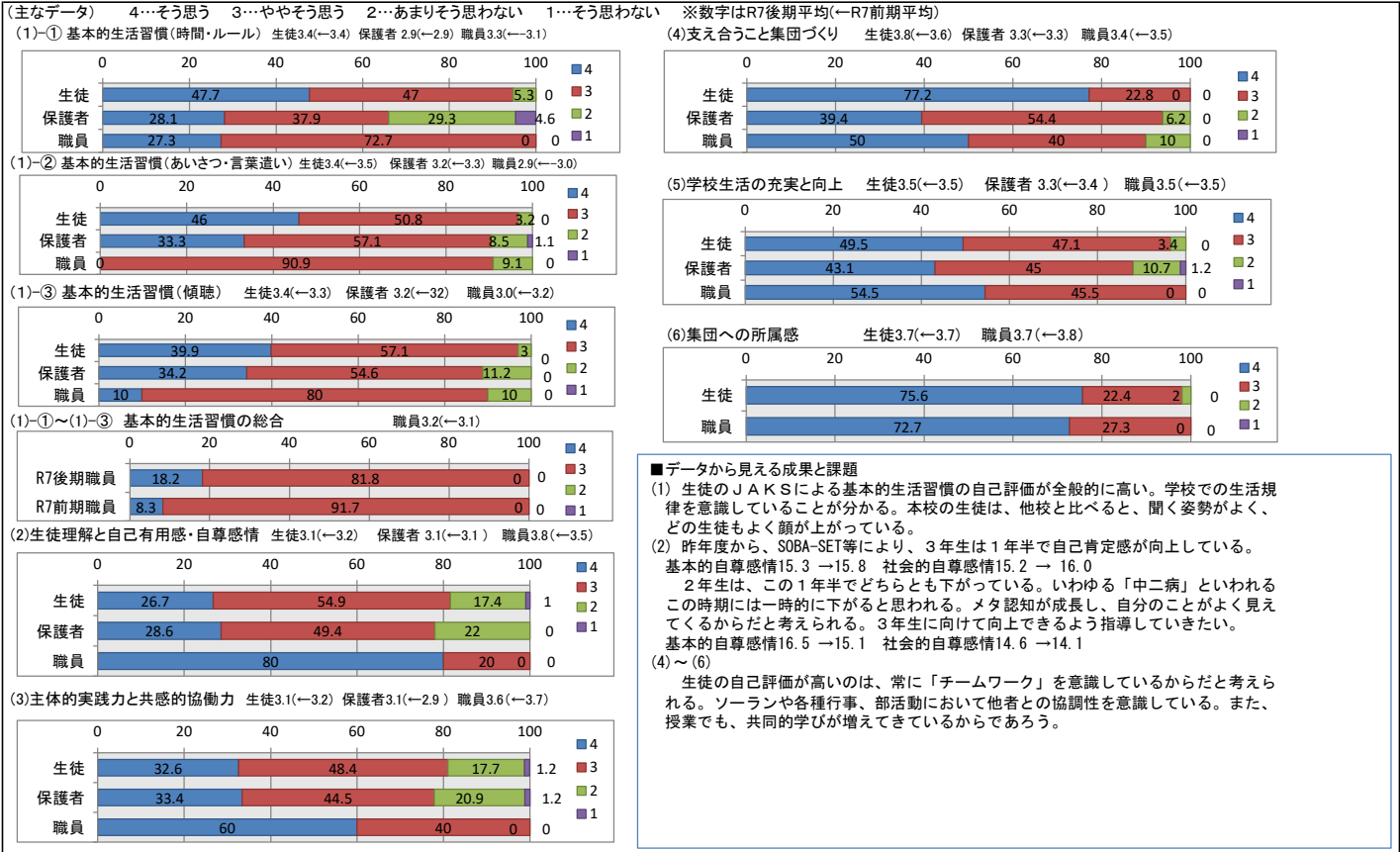
ア
生徒の状況

自己評価Aと外部 評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意識もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で数値が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

I 自主的・自律的な生活

生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
明るく心のこもった挨拶をし規律ある落ち着いた生活を送りながら主体的実践力を育もうとしている。 互いに認め合い、協力し合いながら安心した学校生活を送り、豊かな人間性を育もうとしている。	前期 良好	良好	自己肯定感や、支え合い認め合うことに関するアンケートの数値が向上していることから、大変よい状態にある。今後、社会に出たときにもこういったよい面を発揮できるように指導してもらいたい。その第一歩として、校内で聞かれるくらいのあいさつを地域や校外でもしてもらいたい。また、授業の発表時の声のトーンとボリュームをもっと上げてほしい。
	年度 良好	良好	自主的に判断して行動できる生徒が多いと感じる。全体的には、もっと声を出すなど元気があるように思う。
自己 評 価 校 の 概 要 と 策	【前期(→年度)】 多くの項目で昨年度同期と比べて上昇している。特に(2)生徒理解と自己有用感・自尊感情の上昇幅が大きく、キャリアアップシートの活用をはじめとして、個々の自尊感情を高められるように指導してきたことが上昇につながったと考えている。 (1)→①基本的生活習慣(時間・ルール)について保護者の肯定的回答が7割弱にとどまっているのは、アンケートの自由記述欄を通して、自転車通学時の交通ルールに関して心配点があるからと把握しており、機会をとらえて指導してきたが、今後も事故防止の観点から丁寧な指導を心掛ける。 【年度(→次年度)】 生徒のアンケートでは前向きな回答が多くあり、これらは前期で培った力を発揮する機会や自分たちの成長を感じられる場面が多かったためと考えている。一方で保護者・職員のアンケートではより高みを目指してほしいという思いから肯定的回答が少なくなっている項目がある。保護者：(1)→①基本的生活習慣(時間・ルール)について、職員：(1)→③基本的生活習慣(傾聴)についてである。授業での指導や成長が、全体での場面や地域や家庭においても生徒によって発現されるように丁寧な指導を心掛ける。		

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
1 JAKS: 基本的な生活習慣の確立 TPO: 人間的基礎力、共感的協働力の育成	(1) 基本的生活習慣の確立(時間管理、挨拶・言葉遣い、聴く・姿勢、整理整頓)	・樹林ノートを活用した見通しのある生活、風紀委員会による推進活動 ・時と場に応じた挨拶、人の話に傾聴する姿勢や態度の向上→(凡事徹底)	4	4	4	4
	(2) 生徒理解とよさを伸ばす関わりによる自己有用感・自尊感情の醸成	・学級、生徒会活動の見届け、称揚と生徒同士が認め合う場の設定→(共生) ・アセス、いじめ調査等のデータを活用・共有した生徒支援	4		4	
	(3) 目標の設定と振り返りによる主体的実践力、共感的協働力の育成	・樹林ノート等を活用した、学期や長期休業の目標設定と振り返り→(挑戦) ・目標の実現に向けた、共感的・協働的に高め合う場の設定	4		4	
2 共感的風土の中での活気ある個と一体感のある集団づくり	(4) 互いに支え合う個・集団づくり ・学年、学級経営、学級活動	・学年委員会の機能を生かした学年集会の計画と実施 ・学校行事に向けた目標設定及び事後の活動の振り返りの場の保障と価値付け (田っ中キャリアアップシート)	4	4	4	4
	(5) 主体的実践力・共感的協働力の育成と学校生活の向上 ・生徒会活動(執行部、専門委員会)	・生徒会テーマに基づいた日常活動の工夫 ・学校生活の向上を目指すための生徒会活動の充実 ・地域と積極的に関わる活動の充実	4		4	
	(6) 共感的・協働的活動による所属感、連帯感、自己有用感の醸成 ・体育祭(田っ中ソーラン、応援合戦)、学校祭(合唱コンクール、学年発表)、地区ボランティア(夏)	・全校が一丸となって、活気をもって取り組めるような行事の計画、実践 ・縦割りの機能を生かした一体感のある活動(体育祭、地区ボランティア等)	4		4	



ア
生徒の状況

自己評価Aと外部 評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

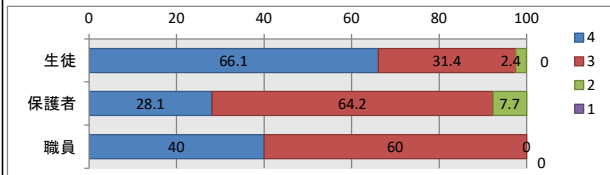
II 思いやりの心・たくましい心

生徒の状況	自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
集団や社会における人間関係の形成と、よりよく生きるための考えを深め、自己実現を図ろうとしている。	前期 良好	良好	互いに認め合い団結する力が育っている。多少のトラブルがあっても自分たちで解決する力も育ってきている。先輩、後輩などの上下関係に気を配ったり、もっと活発なコミュニケーションがとれるようになることが望まれる。
	年度 良好	良好	学年を超えて仲がよい。部活動などで、生徒が自主的に話し合いの場をもち一つの目標に向かって活動できている。稲刈りボランティアは生徒会の自主的判断で行ったもので、このような活動によって思いやりの心が育っているのだと思う
自己評価の概要 学校と改善策	【前期（一年度）】 自他を認め、協力し合う態度について、3または4の回答をした割合が生徒・保護者・職員全てにおいて9割を超えている。しかし、4の回答割合が昨年度前期と比較して下がっているため、今後も教育活動全体で生徒の思いやりの心を育み、思いやりをもって行動することのよさを実感できるようにしていきたい。そのために、週1回の道徳を大切にしながら、SGEを継続して行ったり、別業を活用することで見通しをもって指導に当たったりしていきたい。郷土愛については、生徒と職員において高評価であった。5月の職場訪問や職場体験、修学旅行での学びが充実していたことが大きな要因の一つと考えられる。その学びを将来につなげていくために、未来を語る会を充実したものにしたい。2年生のSOBA-SETの結果では、社会的自尊感情の割合が高い傾向が見られるので、結果に至る過程を重要視した指導を心がけたい。また、生徒同士においても目標やゴールに向かってどのように努力していたか認め合う場を設定するなどして基本的自尊感情を高めていくようにしたい。		
	【年度（一次年度）】 (7)について、前期と同様に3または4の肯定的な回答が9割を超え、4と答えた生徒の割合が6.6ポイント上昇した。しかし、職員と保護者は10ポイントのマイナスとなった。道徳科の授業やSGEを中心にしながらよい行動や考えを生徒同士で認め合ったり、周りの大人が価値付けしたりできたことがポイントの上昇につながったと考えられる。さらに上のレベルに引き上げる工夫はないか探していきたい。(8)について、4と答えた生徒の割合が17.5ポイント下がった。「未来を語る会」では、3年生による地域活性化のためのプレゼンテーション発表や今年度の学習の振り返りを通して、将来田代とどのように関わりながら生きていきたいかについて全校で意見を交わし、考えを深めることができた。ただし、クマ対策のために、登山や自然体験教室が中止になったことがポイントの低下につながったと思われる。来年度も自然体験に関わる活動を行うことは難しいためそれに代わる活動を考えたい。2年生のSOBA-SETでは基本的自尊感情を高めることが課題であったが、キャリアアップシートでの振り返りやSGEを中心として、結果だけでなく活動の過程を大切にしたい働きかけが功を奏したと考えられる。引き続き、基本的自尊感情を高める取組を行っていきたい。		

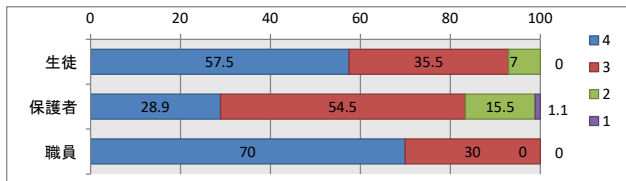
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
3 よさの伸長と豊かな心と自立心	(7)自他を認め、互いに協力し合う生徒の育成 ・教育活動全体を通じた道徳教育と「考え、議論する道徳」の充実	・学校と学年の重点目標を位置付けた計画と実践(道徳教育全体計画別業の活用) ・創意工夫を生かした教育活動と関連付けた道徳の実践 ・道徳集会(全校生徒で「考え、議論する」場)の設定	4		4	
	(8)ふるさとを愛し、積極的に交流・貢献する生徒の育成 ・職場見学、地域訪問、職場体験、キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動等	・職場見学、地域訪問、職場体験の充実 ・キャリア講話、田代と自分の未来を語る会、地区ボランティア活動などを通じた郷土愛の醸成 ・ボランティア活動、地域行事、子どもハローワークへの参加の推進 ・活動の振り返りの設定と価値付け(ポートフォリオ、樹林N、特活F、キャリアパスポート、キャリアノート)	4	4	4	4

(主なデータ)

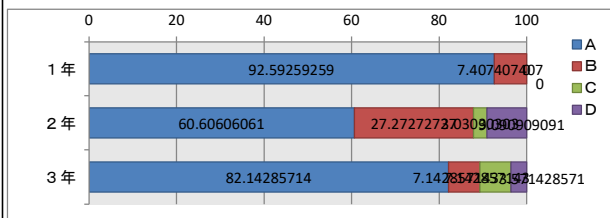
(7) 自他を認め、協力し合う態度 生徒3.6(←3.6) 保護者 3.2(←3.3) 職員3.4(←3.4)



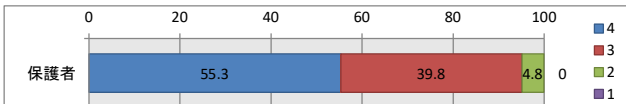
(8) 郷土愛 生徒3.5(←3.6) 保護者 3.1(←3.0) 職員3.7(←3.8)



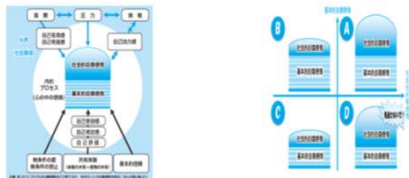
(8) SOBA-SETによる、学年ごとの4類型の割合



(7)(8) 活躍の場 保護者3.5(←3.4)



A 自尊感情の構造図と4つの分類



【3年 認知症サポーター講座】



【全学年 村岡さんのココロの授業】



【全学年 生徒会による稲刈りボランティア】



【3年 性教育講座】

B SOBA-SETアンケートによる基本的自尊感情と社会的自尊感情の平均値

	基本的自尊感情の平均	社会的自尊感情の平均
1年	16.8 (←16.5)	17.0 (←16.7)
2年	15.1 (←14.3)	14.1 (←15.4)
3年	15.8 (←15.7)	16.0 (←14.9)

※どちらも満点は24点 ()は前期・5月の数値

C SOBA-SETアンケートによる基本的自尊感情の分布表 (人)

	6-7	8-10	11-12	13-15	16-17	18-21	22-24
1年 基本的自尊感情	1(0)	2(1)	13(12)	5(6)	6(7)	1(3)	
1年 社会的自尊感情	1(1)	3(3)	6(7)	9(7)	9(9)	0(2)	
2年 基本的自尊感情	0(1)	4(1)	17(16)	9(9)	3(6)	0(0)	
2年 社会的自尊感情	0(1)	6(4)	12(13)	7(7)	4(4)		
3年 基本的自尊感情	1(1)	2(3)	13(15)	5(5)	6(5)	1(0)	
3年 社会的自尊感情	1(4)	3(2)	6(6)	9(9)	9(5)	0(3)	

データから見える成果と課題

(8) SOBA-SETの結果等から
・1年生は基本的自尊感情も社会的自尊感情もどちらも上昇し、よい傾向にある。何事にも前向きに取り組める学級の雰囲気からくるものである。2年生は社会的自尊感情は大幅に減少したが、基本的自尊感情は大きく上昇した。部活動や行事等での活躍が基本的自尊感情に結びついている。一方で、もっと上の成績をねりたいという気持ちがある社会的自尊感情の低下に表れており、よい傾向にあると考える。
県学習状況の質問紙「自分にはよいところがある」は、肯定意見の県平均が約80%に対し、1年生は100%、2年生は84%であった。「学校が楽しい」は県平均90%に対し1年生が100%、2年生が97%であった。
・3年生は基本的自尊感情はほぼ変化がなかったがやや上昇。社会的自尊感情は大幅に上昇した。1年半前と比べるとどちらも大きく上昇している。部活動や学校行事での活躍により、社会的自尊感情が特に上がったと考えられる。

ア 生徒の状況	きわめて良好	自己評価Bの評価基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

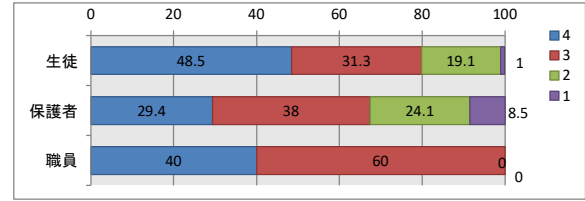
Ⅲ 基礎学力

生徒の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
基本的な学習習慣を身に付け、共感的・協働的な学び合いを通して「おおだて型学力」を向上させようとしている。	前期	おおむね良好	おおむね良好	先生の数が昨年よりも1名減ったことにより、どの教科においても、全学年の生徒を一人で見ていかなければならない状況になってしまった。少人数学習はできなくなったが、現2・3年生の学習面での向上が見られる。
	年度	おおむね良好	おおむね良好	3年生は上向き傾向に、2年生はとても高いレベルに、1年生は平均以上のレベルにあり、とてもよい傾向にあると思う。現状に満足することなくさらに上を目指してもらいたい。
自己評価の概要と改善策	【前期(→年度)】 (9)について、教員の肯定的な意見が増加した。学習委員とともに生徒の学習意欲向上に取り組んでいることや、樹林ツアーや研究授業等による授業改善に励んでいることが奏功したと考えている。(10)について、生徒が主体的に課題を追究する授業実践について、職員の意識が昨年度よりも高い。今後各教科等で、生徒が「見方・考え方」を働かせられるように授業の工夫を行い、主体的に課題に取り組める生徒を育てていく。今年度の重点である、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を単元の中に取り入れていく。(11)について、授業内容を理解することができていない生徒が各学年で4～6％(2～3人)いて、困り感をもっていることが分かる。全ての生徒が同じ土俵に立てるよう、指示や発問をシンプルかつ明確にし、UD(視覚化、共有化、焦点化)を意識した授業を継続していく。			
	【年度(→次年度)】 (9)について、肯定的な意見がやや減少したため、2学期終業式に、「人はなぜ勉強をするのか」というテーマで校長が講話をしてくれた。今後、勉強の意義や方法について理解した上で、自主的に家庭学習に臨む生徒が増えることを期待している。(10)主体的・協働的授業に関して、数値は生徒の数値は微減しているが、昨年度と比較すると悪くはない。(R7:69.7％ R6:61％)自分の意見や考え、疑問などを述べることができるよう、生徒一人一人が最適に学べる支援の工夫を今後も継続することで、生徒一人一人に自分の考えをもたせ、協働的な学びにつなげていきたい。(11)諸検査の分析と活用・授業の理解に関しては、12月に行われた県学習状況調査の結果が公表されたため、3学期、弱点の補強に各教科で取り組んでいく。			

評価指標		主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
4 一体感と活気のある学習活動	(9)基本的な学習習慣の確立と主体的な学習の充実	・「田代中学習の約束」を基盤とした基礎・基本の定着 ・学習、ICTオリエンテーションによる生徒の学習意欲の向上と授業を見合う会(樹林ツアー)、研究授業等による授業改善 ・学習委員会による学習状況の評価と課題改善に向けた活動の充実	3		3	
5 授業改善への取組	(10)生徒一人一人が自分の考えをもち、共感的・協働的に課題を追究する授業実践	・各教科で働かせる「見方・考え方」や育む資質・能力を明確にした単元(題材)構想と 授業デザインの工夫 ・学び合いの時間「樹林タイムD・F」の実施と教師のコーディネート ・自己の変容や学びを自覚させるためのつながりを意識した振り返り	3	3	3	3
6 諸検査の分析と活用	(11)学習状況調査等の分析と指導方法の改善	・各種テストの分析と適切な回復指導 ・形成的評価を生かした学習状況の把握と回復指導	3		3	

(主なデータ)

(9) 家庭学習の継続 生徒3.3(←3.3) 保護者 2.9(←3.0) 職員3.4(←3.5)



《授業の様子》



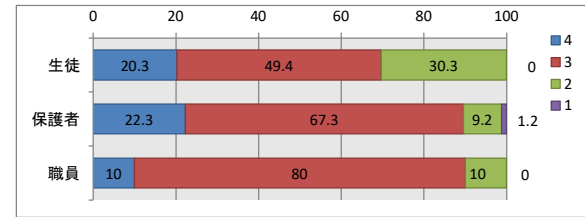
【音楽】



【理科】

(10)主体的・協働的授業 生徒2.9(←3.0) 保護者 3.1(←3.1) 職員3.0(←3.2)

生徒:授業では自分の意見や考え、疑問などを述べるようにしていますか。
保護者:学校は授業の工夫をしたり、タブレットパソコンなどICTを活用したりしていると思われますか。
職員:生徒が主体的に課題を追究する授業実践



【国語】



【保体 集団演技】



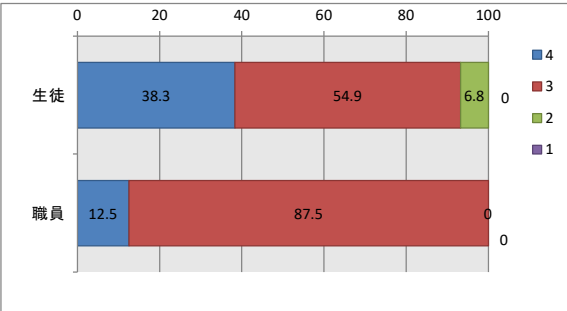
【社会 模擬裁判】



【2学期終業式 校長講話
「人はなぜ勉強をするのか」

(11)諸検査の分析と活用・授業の理解 生徒3.3(←3.3) 職員 3.1(←3.3)

生徒:授業の内容をおよそ理解することができていますか。
職員:各種テスト、評価、学習状況調査等の分析と回復指導



【全国学力・学習状況調査(4月実施・3年生のみ)と県学習状況調査(12月実施)の結果】

現学年	実施年	国語	社会	数学	理科	英語	合計
3年	R7全国学テ3年	100.0	—	98.0	107.4	—	101.8
	R6 2年	101.1	94.0	99.3	95.1	99.8	97.9
	R5 1年	98.3	80.5	81.6	101.2	109.5	94.2
2年	R7 2年	106.2	115.0	122.6	113.8	110.8	113.6
	R6 1年	105.4	116.5	117.4	117.6	113.0	114.0
1年	R7 1年	99.0	110.3	104.5	108.3	99.2	104.3

※県平均を100にした場合の指数

■データから見える成果と課題

・(9)の家庭学習のグラフを見る限り、それなりに家庭学習を行っているが、どちらかというと「やらされ」感が強い。このため(10)のグラフのように積極的に発言するところまでいたっていない。まだまだ、受け身の状態である。2学期の終業式では、校長が「人はなぜ勉強をするのか」というタイトルでの講話を行った。勉強の意義、効果的な家庭学習の方法等について解説した。
・学力検査は、3年は上昇傾向に、2年生は極めて高いレベルに、1年生も平均以上のレベルにある。

ア 生徒の状況	きめて良好		5	実現状況は極めてよく意欲も高い／数値目標に対し100％以上達成
	良好	自己評価Bの評価基準	4	実現状況は良好で意欲もある／数値目標に対し80～99％達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79％達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59％達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39％以下の達成

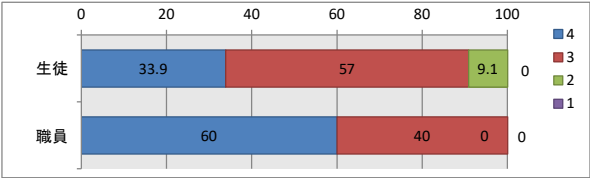
IV 組織運営

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
教職員が学校教育目標及び重点事項等を踏まえた主体的、組織的な取組を行っている。	前期	良好	良好	教職員の研修が盛んに行われており、常に学びながら、チームとして業務に当たっている。どの先生の表情も明るく、元気に頑張っている姿が子どもたちにもよい影響を与えている。
	年度	良好	良好	校長通信やSOBA－SETが学校経営全体にとってもよい効果を生み出している。
自己評価 学校の概要の 要 改 善 策	【前期(一年度)】 どの項目においても職員の自己評価が高くなっている。昨年度に引き続き、年度初めのSOBA－SETによる生徒理解や、職員会議における生徒指導に関する研修によって、教育活動全般のベースが生徒指導であるという意識が職員の中で高まっていると思われる。特に(14)については昨年度から、道徳教育を根幹とした行事運営もを行っていることが、高評価につながっていると思われる。また、体育祭、地域行事、部活動等、様々な行事は、社会の変化に対応しながら、また生徒の実態に応じながら計画、実行されていることも成果である。しかしながら、生徒や保護者の評価に目を向けると、「学校は生徒や保護者の悩みや相談を聞いて対応しているか」の項目で「2」と「1」と回答している人が1割程度いる。今後も職員の生徒理解、指導の充実させながら、集団を見つづ、個々にも目を向ける指導体制、チーム対応を図っていくようにしたい。			
	【年度(一次年度)】 学校教育目標の具現化に向けて教職員が一丸となっている姿勢が、各項目の高評価として表れている。その中の一つとして、今年度道徳に力を入れ、教科道徳の他にSGEに取り組んだり、価値項目を入れた行事計画や職員会議での校長による研修によって、生徒の自己肯定感を高め、共感的な人間関係を構築しようとしている成果だと考える。その一方で、生徒、保護者においては「心と体の健康」についての項目が前期に比べて数値が下がっている。生徒の家庭環境が多様化していることを頭に置きつつ、生徒の変化に常に気を配る意識とその連絡体制、および関係機関とも連携したチーム対応を図っていききたい。その他、ふるさとキャリア教育については、田代岳登山や自然学習は安全面を考慮し中止になったが、地域からの依頼で行うことになった全校稲刈りボランティアや、ゲストティーチャーを招いた未来を語る会など、活動が減っても充実した取組ができたと思う。今後も状況の変化に対応しながら、目的を明確にした上で活動を設定していききたい。			

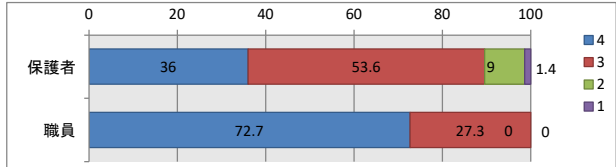
評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
7 組織的な学校運営	(12)学校教育目標・目指す学校像・生徒像実現への取組 (共通理解・共通実践・凡事徹底・組織力を生かしたチーム対応)	・目標の実現のための三つの柱(確かな学力の育成、豊かな人間性と社会性の育成、「ふるさと キャリア教育」の充実)に基づく共通実践 ・目的と手段を明確にした教育活動の展開と全ての教育活動を通して一人一人が身に付ける資 質・能力(JAKSを基盤とした人間的基礎力、主体的実践力、共感的協働力、自己有用感・自尊感情)の育成 ・目標の実現のための学校評価等の活用と改善	4		4	
	(13)生徒理解を深め、課題予防的生徒指導の実践	・教育相談・アセス・SOBA－SETの実施、教員間の共通理解とチーム対応 ・不登校、問題行動についての共通理解と支援体制の構築 ・生徒の健康に関する共通理解と健康意識の向上を期した掲示環境の整備 ・望ましい生活習慣の確立を目指した保健指導と食育	4	4	4	4
8 教育課程の編成と実施・改善	(14)社会に開かれた創意ある教育課程の編成	・ふるさとキャリア教育を充実させる総合・特活・各教科との関連を図った計画 ・見通しをもてる年間計画・月計画・週計画の作成と運用	4		4	
9 教職員の研修	(15)研修及び授業研究会を通じた指導力の向上	・校内研修会(ICT、夏季、冬季)の充実 ・教科を超えて全員で研修する指導案検討会と授業研究会 ・毎月1回「授業を見合う時間」(樹林ツアー)の設定	4		4	

(主なデータ)

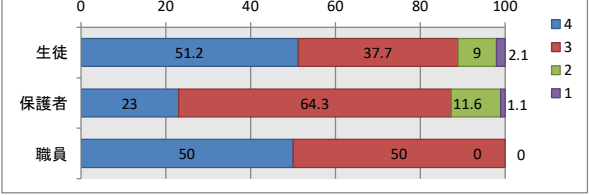
(12)組織的な学校運営 生徒3.2(←3.3) 職員3.6(←3.5)



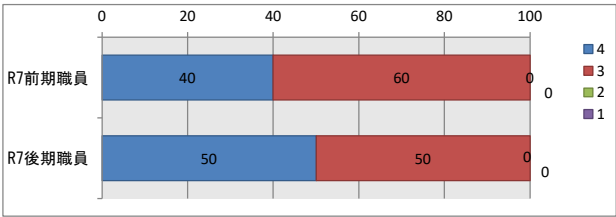
(14)社会に開かれた特色ある教育課程 保護者3.2(←3.4) 職員3.7(←3.7)



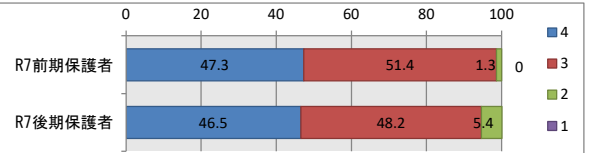
(13)心と体の健康(主に心の健康) 生徒3.4(← 3.5) 保護者3.3(←3.2) 職員3.5(←3.5)



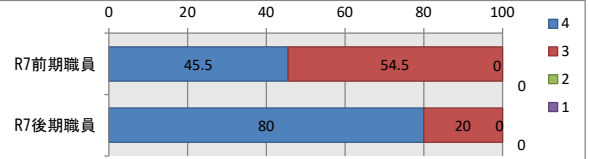
(15)研修・授業改善 職員3.5(←3.4)



(13)① 心と体の健康(主に体の健康) 保護者3.4(← 3.5)



(13)② 心と体の健康(全般) 職員3.8(← 3.5)



■データから見える成果と課題

- (12) 職員のまとまりが強く、一丸となって教育に取り組んでいる。連絡体制もしっかりしている。生徒も教師も「楽張る」学校になっている。
- (13) 自己肯定感の育成のために、心の健康を重視している。様々な心の健康の問題を抱えている生徒に共通して言えることは、親とのアタッチメント形成がうまくできていないところである。今後、教師と生徒による再形成に努めたい。
- (14) 道徳教育を根幹としたカリキュラムマネジメントについて、もっと保護者や地域にアピールする必要がある。職員の自己評価はとても高い。
- (15) 東北道徳研究会が本校を会場に行われた。全員が研究会に参加し、道徳科の授業について深く学ぶことができた。また、毎月、職員会議の際には、校長が職員研修を行い、翌月の重点としている。

イ
学校運営の
状況

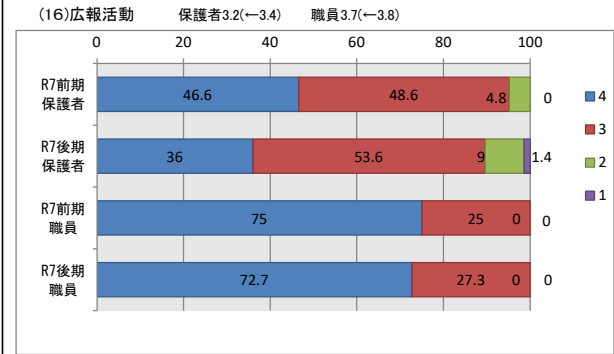
自己評価Aと外部 評価の評価区分	きわめて良好	自己評価Bの評価 基準	5	実現状況は極めてよく意識も高い／数値目標に対し100%以上達成
	良好		4	実現状況は良好で意識もある／数値目標に対し80～99%達成
	おおむね良好		3	実現状況はおおむね良好／数値目標に対し60～79%達成
	やや不十分		2	実現状況はやや不十分で取組が不安定／数値目標に対し40～59%達成
	努力を要する		1	実現状況は不十分で努力を要する／数値目標に対し39%以下の達成

V 保護者・地域との連携

学校の状況		自己評価A	学校関係者評価	学校関係者評価委員のコメント
学校の取組が分かりやすく保護者や地域に伝えられ、地域の教育力が有効に活用されている。	前期	良好	良好	ホームページやブログ、お便り等で学校の情報、子どもたちの様子をタイムリーによく伝えている。ホームページの更新はもう少しこまめにしたい。地域人材の活用やPTAとの協力もよく行われている。
	年度	良好	良好	クマの問題があり、田代岳登山や自然教室の実施が難しくなってきたが、田代の自然は財産なので、このよさを体験できる活動を考えてもらいたい。また、ロケット試験場など、他にはない施設などの見学、利用も考えてもらいたい。
自己評価 学校の概要 の要 と 善 策	【前期(→年度)】 (16)昨年度、成果が得られた取組を継承し、学校の教育方針や学校行事における生徒の様子について、学校報や学校HP、学校ブログ、連絡メール等で情報発信してきた。保護者の95%から肯定的な回答を得ており、昨年度と同様の成果が得られたと受け止めている。一方、4の回答の割合が減少したことについて、年度当初の学校ブログの更新時期の遅延が原因と捉えている。今後は即時性を大事にして、タイムリーに情報を発信していきたい。 (17)地域・保護者との連携についても保護者の97%から肯定的な回答を得ており、4の回答も増加している。地域コーディネーターによる花壇作業等、保護者による夕焼け奉仕作業等、地元講師によるキャリア講話、有志生徒による地域行事への参加等、地域、保護者、学校が関わりながら教育活動を推進することができたと捉えている。後期も生徒の健やかな成長を後押ししていただけるよう地域・保護者の理解及び支援を得られるようにしていきたい。			
	【年度(→次年度)】 (16)学校報、HP、ブログにおいては生徒の学校生活や各種大会について、連絡メールにおいては緊急連絡や大会結果について周知する目的で発信してきた。昨年度と異なり後期は、クマの出没が多発したことから家庭への注意喚起を中心に連絡メールを活用した。一方、ブログに関しては、作成サービスを移行する必要があるため、作業と周知をスムーズに実行できたが、クマの出没や感染症拡大への対応及び行事の変更等が相次ぎ、継続的な発信ができなかった。今後は、tetoruの活用を含めて情報発信の活性化を図ってきたい。 (17)保護者の肯定的な回答が前期よりやや減少したことについて、地域や保護者の方々の協力の下で行ってきた田代岳登山、自然教室をクマ出没により中止したことが影響していると捉えている。その中で、突発的ではあったが、稲刈りボランティアを実施したことで得られた成果は大きかった。地域の要請に生徒会執行部が主体となって応えたこと、地域コーディネーターに協力者を調達していただいたことなど、地域との関わりを強く感じる好機となった。来年度は、生徒の安全を優先するとともに、地域との関わりを得られるような教育活動の工夫を図ってきたい。			

評価指標	実践課題	主な取組	自己評価B			
			前期		後期	
10 情報の受発信と学校開放	(16)広報活動の充実と学校開放	・学校報、メールでの保護者への情報発信 ・HPを利用した地域・社会への情報発信 ・学校開放の実践(保護者・地域)	4		4	
			4		4	
11 地域の教育力の活用	(17)地域・保護者等と連携・協働した教育活動	・PTA活動の充実や地域学校協働本部事業の活用 ・地域及び学校間の連携、協働のための連絡調整と活動の促進	5		4	

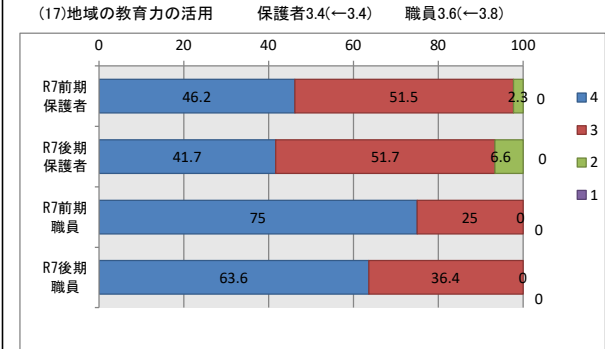
(主なデータ)



【学校報・学年通信による情報発信】



【HP・ブログによる情報発信】



【ペットボトルキャップ贈呈式】



【キャリア講話】

■データから見える成果と課題

- (16) 今年度は、学校の情報発信等のシステムの切り替えが様々あり、同時にクマによる行事の中止、インフルエンザでの学級閉鎖等が重なり、軌道に乗るまでに少し時間がかかった。今後、随時更新していきたい。
- (17) 登山と、自然教室の中止による影響が大きい。クマが頻繁に出没する状態では、登山や自然教室については保護者や教育委員会から承諾を得られないものと考えられる。来年度以降も実施は難しい。